



総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

## 地域人材ネット

地方都市及び農山村における住民参加協働型地域づくり

井原 満明 ( いはら みつあき )

株式会社 地域計画研究所 代表



### ○ 登録者情報

所在地

東京都中野区

## 略歴

- 1988年 「身近な環境を見つめよう市民研究コンクール」; 都市環境としての酪農・農村集落存続の試み」  
共同研究優秀賞受賞(トヨタ財団)
- 1989年 地域資源活用ふるさと体験農園アドバイザー／農水省(～1992)
- 1995年 地域振興アドバイザー、農山村第3セクターアドバイザー／旧国土庁・国交省(～2008)
- 1999年 都市農村交流調査「交流百選」委員／農水省(～2000)
- 1999年 都市農業検討委員／農水省(～2001)
- 2002年 中心市街地活性化タウンマネージャー／中小企業事業団・経済産業省(～2006)
- 2006年 首都圏郊外の新しい環境空間の創造方法と管理に関する調査委員／国交省、農水省、横浜市  
(～2007)
- 1999年 東京学芸大学非常勤講師(～2000)／2004年 東洋大学非常勤講師
- 2010年 地域活性化伝道師／2013年 農山漁村活性化支援人材バンク

## 著書・論文等

【共著】地域再生のむらづくり・まちづくりー循環型社会の地域計画論:エコミュージアム(2003年9月)、NPO基礎講座3:現場から見たマネジメント(1999年9月)、日本型クラインガルテン実現へのビジョン(1994年06月)

【論文】『農村文明の創生』(毎日フォーラム:2012.9)、『地域資源を生かし地域が元気になる観光』(月刊自治研:2008.2)、『環境を優先しコミュニティの再構築をめざす都市環境づくり』(連載:環境技術2002.06)、『農山村型第3セクターの新たな役割ー地域づくりと公益活動』(地域開発1997.11)、『農山村における「エコミュージアム」と「グリーンツーリズム」の融合展開』(1999年日本建築学会)、『田園都市レッチワースの地域経営ー維持・管理そして創造に向けて』(共著:地域開発1999.05)

## ○ 地方都市及び農山村における住民参加協働型地域づくり

### 取組の内容

【岩手県旧東和町における中心市街地活性化:道路の社会実験】旧東和町の由緒ある土沢商店街の活性化の取組みについては、地域住民と行政の共同による出資を募りTMO組織(住民協働型第3セクター)である「土沢まちづくり会社」を立ち上げ、道路の社会実験(国交省)で「遊びの歩道」「和と洋の歩行者天国」の社会実験、地域の環境(食材等)と結びついたコミュニティレストランを地域の共同体を組織し実践し商店街の賑わい造りに評価を受け、商店街のモデルケースにもなりました。

【長野県木島平村農村文明塾の運営】2010年から長野県木島平村における「農村文明の創生」を目指した農村文明塾の運営に関わり、小規模自治体の再生に向けた実践的な取組みを行っています。具体的な事業は村民を対象とした「農村学講座」、首都圏の大学生などとの交流から定住を目論んでいる「農村版大学コンソーシアム」、全国の村長とのネットワークを図る「全国村長サミット」などの開催です。雪室プロジェクトを立ち上げ雪室貯蔵酒を酒米栽培農家と地元の湧水を使い誕生させました。

【その他】エコミュージアムを取り入れた農山村地域や島嶼での地域再生に関するアドバイザーを行い農水省の「田園空間博物館」の事業設計に資料等の提供を行いました。特にエコミュージアムとグリーンツーリズムとの融合展開を提案しています。英国における「行政」「企業」「住民」とのパートナーシップによる環境改善組織「グラウンドワーク」の調査を行い、財団法人日本グラウンドワーク協会の立ち上げも参加しました。



雪室プロジェクト:酒米栽培農家の集落で地元の湧水を使って作った地酒を雪中貯蔵酒として販売



第2回全国村長サミット、演壇に勢揃いした参加村

## 実績

### 【木島平村農村文明塾の運営】

- 農村学講座(2010～2013)延べ参加者1,780人、実数:村民280人
- 村民研究員の会(2011～)約20名の参加
- 大学コンソーシアム(2011～2013)延べ11大学1,256人、リピーター約40名(2014年に地域おこし協力隊で1名移住)
- 全国村長サミット(2012年:48村長/2013年:33村長)、参加者延べ500人(2012・2013)
- 雪室貯蔵酒:2013年-460本、2014年-1040本(熟成中)、共に4合瓶と1升瓶



金沢大学と糠千集落との「域学連携協定」村は後見役として調印。大学と集落とのユニー



金沢大学と糠千集落との「域学連携協定」村は後見役として調印。大学と集落とのユニー

### 工夫した点や苦労した点

村の活性化は、少子高齢化した農村集落の再生が重要と大学コンソーシアムに参加した学生で、糠千という過疎集落に3年間関わり、ようやく地域づくり糸口がつかめるようになりましたが、特に条件不利地域の集落では、少子高齢化に歯止めがかからず、あきらめ的な意識があり、農村文明塾では、農村の「暮らしと生業」に自信と誇りを持つと活動していますが、地域の再生をめざした意識づくり(価値感の転換)の難しさを感じています。

### ひとことPR

大学コンソーシアムでは、過疎集落に3年間(夏季講座:5泊6日、秋季講座:1泊2日、冬季講座:2泊3日)学生達との交流が進められ、集落への50の提案があり、平成26年度からは集落の計画と調整を図り、学生との協働プロジェクトを実践することになっています。今までの交流から地域づくりへの糸口を掴みつつあります。また、2年生の時から参加していた学生が、4月から地域おこし協力隊として移住し新たな活動の展開を図ろうとしています。



大学コンソーシアムでの最後には学生達からの提案が行われます。



学生達による“むらあるき”による集落点検調

## ○ 参考

### 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革		7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
○	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進	○	11	その他
○	6	観光振興・交流			

### 関連ホームページ

(株)地域計画研究所	<a href="http://ckk.jp/"><u>http://ckk.jp/</u></a>
(株)地域計画研究所	<a href="http://nouseonbunmei.jp"><u>http://nouseonbunmei.jp</u></a>

### 連絡先

メールアドレス	micky-ih[rアットマーク]icom.zaq.ne.jp	その他	
---------	---------------------------------	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る